



ITSシンポジウム2024

## 景観デザインの実践と人づくり

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 星野裕司



熊本駅  
周辺

花畑  
広場

白川  
緑の  
区間





# 熊本駅 周辺



# 花畑 広場



# 白川 緑の区間



熊本駅  
周辺

2005

～

2021

～



花畑  
広場

2011

～

2022

～



白川  
緑の区間

2004

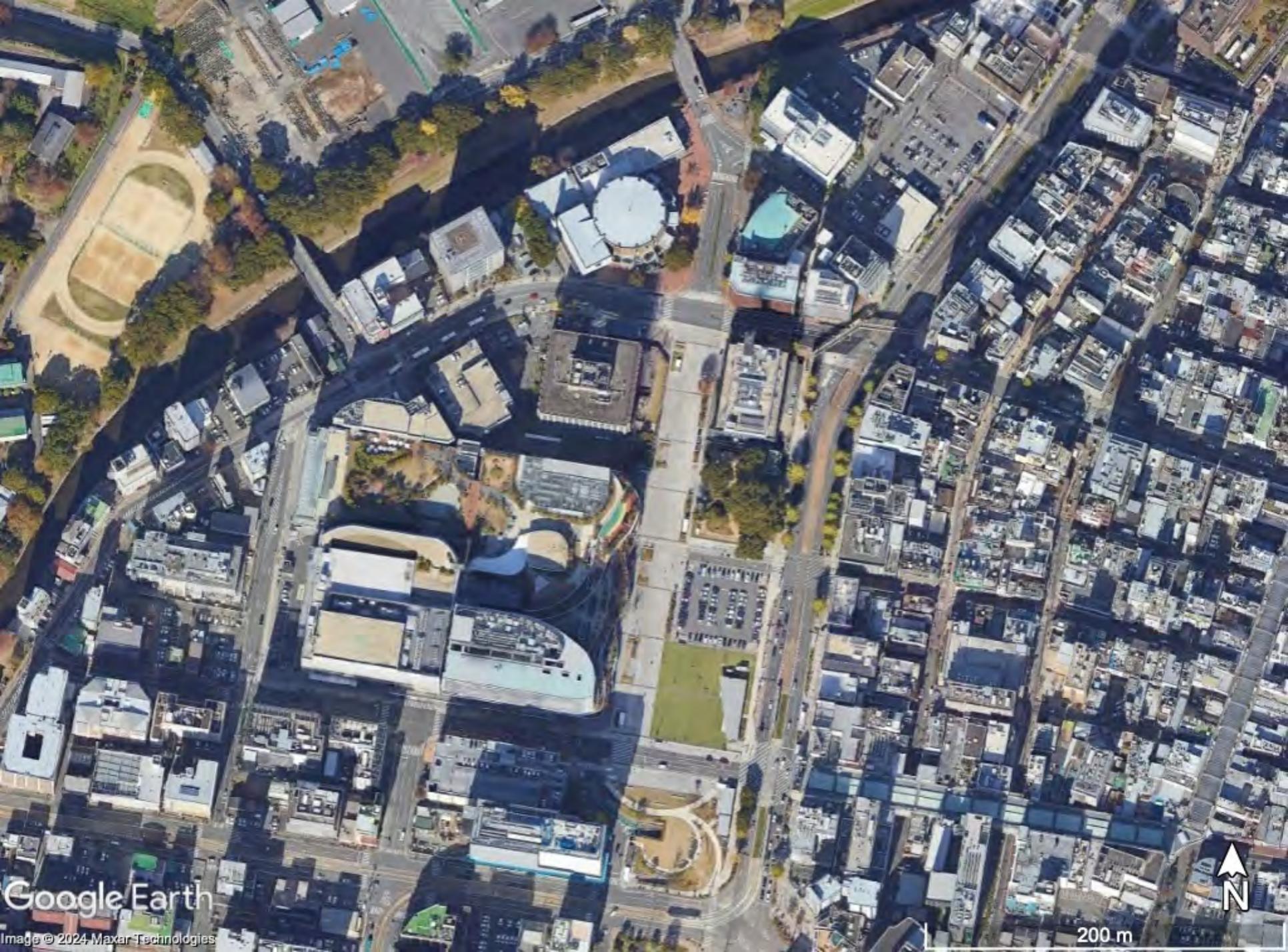
～

2025?

?





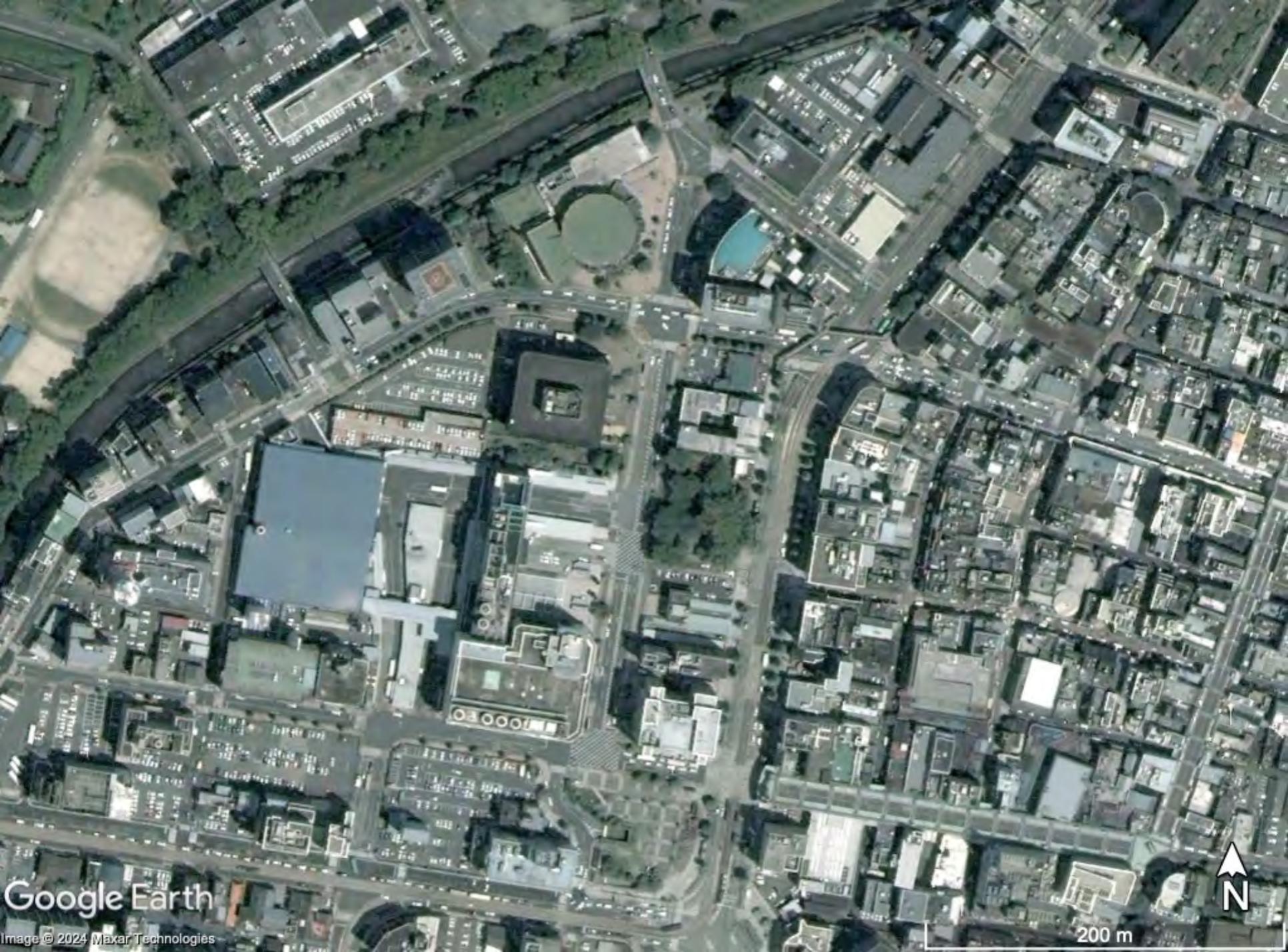


Google Earth

Image © 2024 Maxar Technologies

200 m





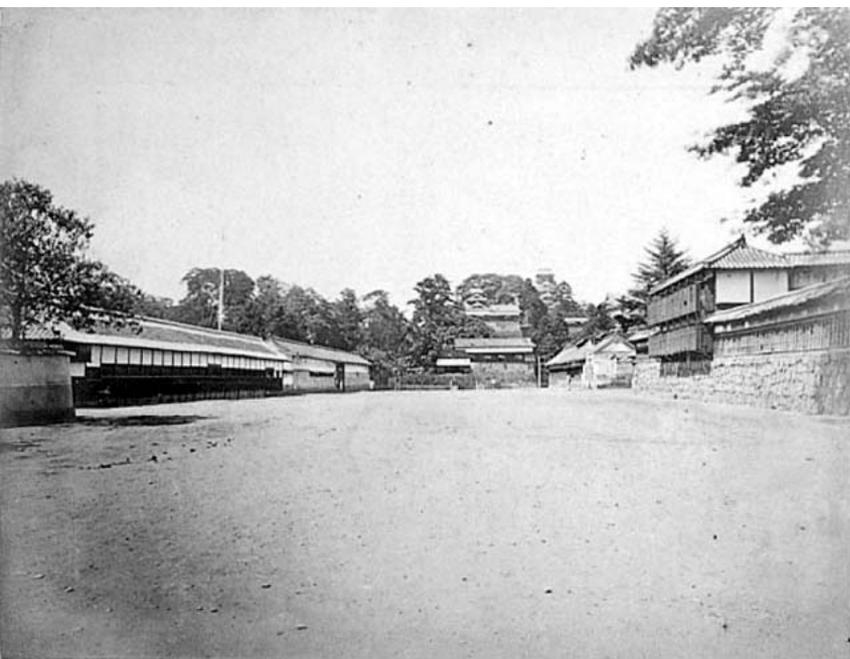
Google Earth

Image © 2024 Maxar Technologies



200 m





明治5年 御花畑前から大天守方向を撮った写真  
(明治天皇西国・九州巡幸に随行した内田九一撮影)



VIEW OF MIYUKIBASHIDORI

丸間のり邊橋幸御 (京首本館)



(景百本熊)

観衆む望を城本旅りよ前碑念祀

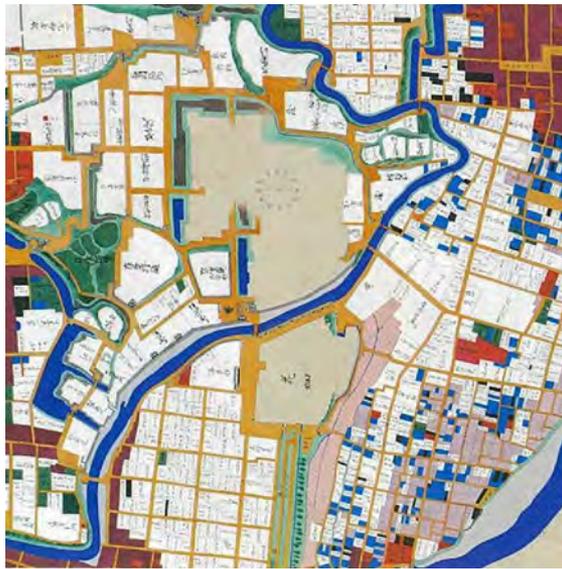
THE KINENHI OF RUMAMOTOGYO

生田誠氏提供



# 歴史的背景／都市における利用の変遷

(いずれも出典：花畑屋敷四百年と参勤交代 (吉丸良治：編著/熊日出版))



熊本城総絵図  
【1861年以降】



熊本全図  
【明治14年/1881年】



熊本市街地図  
【大正13年/1924年】



熊本市都市計画図  
【昭和34年/1959年】

# 対象地周辺の位置付け

桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想より

## 【通町・桜町周辺地区】

- 活力と賑わいに満ちた空間形成
- 中心商店街をはじめとした熊本城周辺の回遊性の向上

凡 例	
	モール
	整備すべき歩行者動線
	商業施設
	業務施設
	文化・交流施設
	公園





## デザインコンセプト

# 熊本城と庭つづき 『まちの大広間』

### 目指すべき姿

#### ① 花畑屋敷など歴史・土地の記憶を継承する空間

熊本城と一体の庭つづきのような花畑屋敷がかつて存在した歴史を継承した空間であり、和の精神に基づく洗練された柔軟性を有する空間

#### ② お城への眺望を活かしたハレの場・おもてなしの空間

熊本城への景観のための「秩序」と活力を生み出す「多様性」が調和する空間であり、ハレの場、おもてなしの場として自由な使い方ができる変幻自在の空間

#### ③ 日常的に集える水や緑豊かな空間

お城と庭つづきの緑がかつて花畑屋敷にもあった泉水に包まれた、集い、くつろぐ空間であり、周辺の建物がそれを演出する空間

#### ④ 交通センターという熊本最大の「駅前」という特性を活かした空間

県下最大の「駅」に面する熊本の顔として、熊本といえどここといえるような象徴的な空間

### 基本理念

#### 利活用面

**車中心から人中心の考え方に転換し、シンボルロードからシンボルプロムナードへの変化に官民協働で取り組み、活力を創造**

地区の中心に位置するロード(車が通る道路)を単に車を締め出すプロムナード(散歩、散歩する場所、散歩道)へ変更するにとどまらず、そのことにより人が優先されるまちづくりの考え方に転換し、都心の活力を生み出していくものであり、そのことは行政だけでは実現せず、地域、関係者と協働で実現していくものとする。

#### デザイン面

**熊本城につながる大広間としてのゆるやかな全体性と様々な場面を創り出す多様性の両立**

正面に熊本城天守閣を望むこと(借景)ができる貴重な財産を活かすのみならず、本地区においても一体的な緑の創出や周囲の建物が襖絵のように空間を演出するよう誘導し地域へ貢献する景色(貸景<sup>※1</sup>)を創り出すことにより、地域全体でゆるやかな統一感を生み出す「全体性」の側面と、個々の建物の創意工夫を促しシンボルプロムナードが季節や時間により場面転換していく「多様性」の両面をデザインにおいて両立していくものとする。

# 対象地周辺の位置付け

桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想より

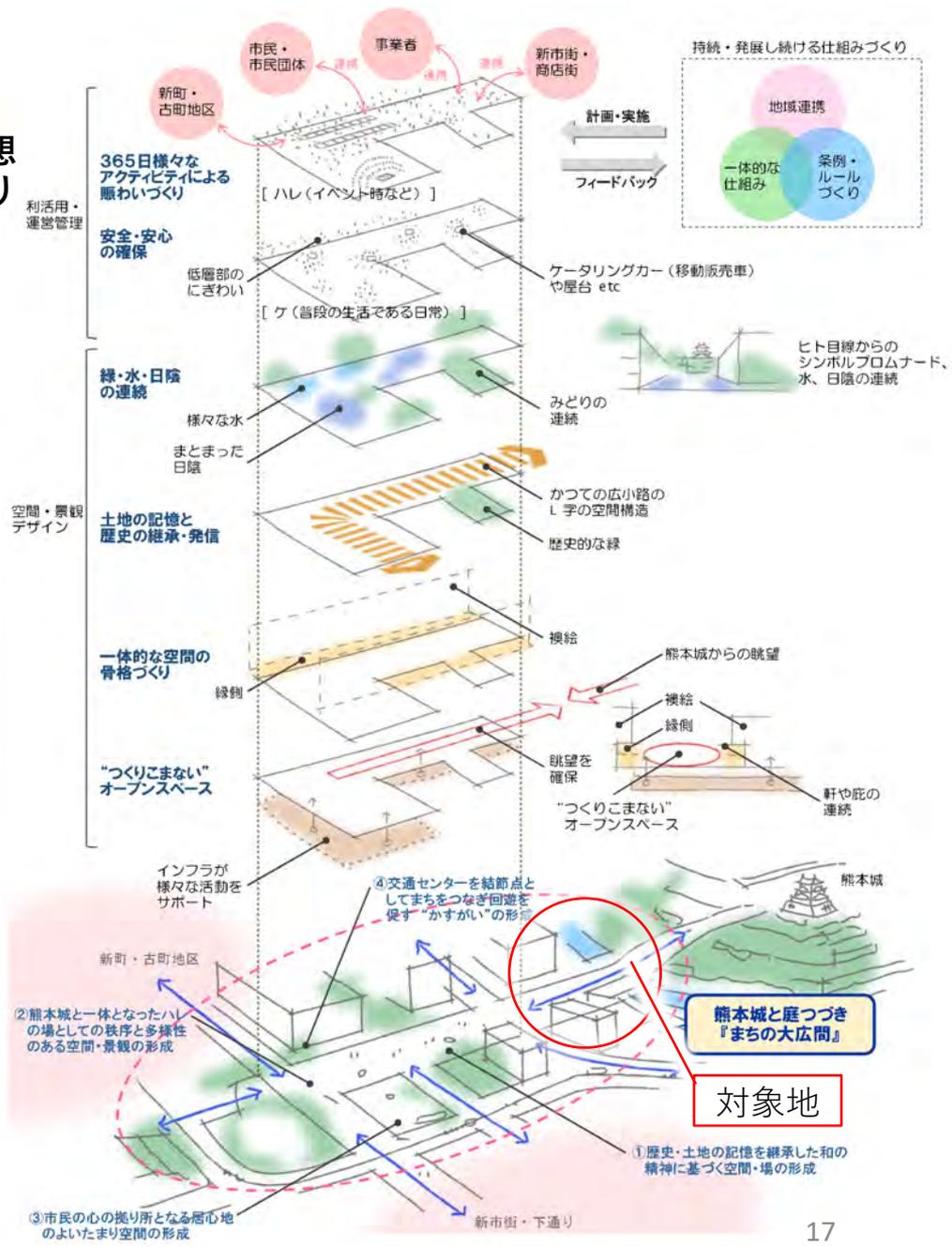
## 【利活用・運営管理の方針】

- 365日様々なアクティビティによる賑わいづくり
- 一体的な利活用・運営管理の仕組みづくり
- 利活用の自由度と安全性を確保する条例やルールづくり

## 【空間・景観デザインの方針】

- 緑・水・日陰の連続した空間づくり
- 土地の記憶と歴史の継承・発信
- 一体的な空間の骨格づくりを誘導
- “つくりこまない”オープンスペースの整備

一体的・総合的な取り組み









多層的 / 多義的



自然發生的



驅動的 / 發生的



必然的

### 3. 検討事項 (2) 桜町・花畑地区におけるエリア防災への取り組みについて

#### ◆防災・減災機能強化 (案) 熊本の新しい二つの顔、防減災プロジェクトにおいて検証、検討

多くの滞留者・避難者等が発生

防災・減災の観点を取り入れた「まちづくりエリアマネジメント」の取り組みが必要

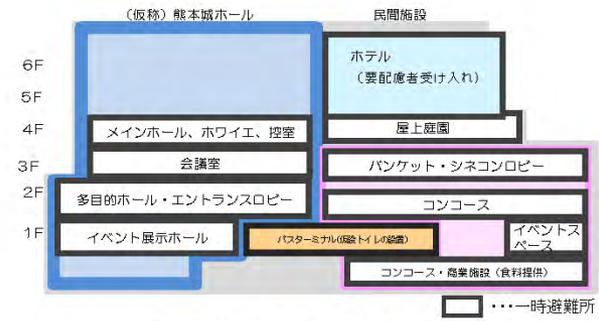
エリア内の資源(強み)を活かした防災連携(エリア防災計画の策定)

#### ○桜町地区市街地再開発事業施設の防災機能

- 施設全体
- ・一時帰宅困難者受入 9,600→11,000人
  - ・備蓄倉庫 1,625→13,000人分(3日分)
  - ・給排水設備容量 72 → 96時間
  - 給排水の多重化(井水や蓄熱槽の活用)
  - ・発電機総量 48 → 72時間
  - ・より強固な支持層への杭延伸
  - ・水害対策  
(電気関係諸室の上階配置・防水扉)

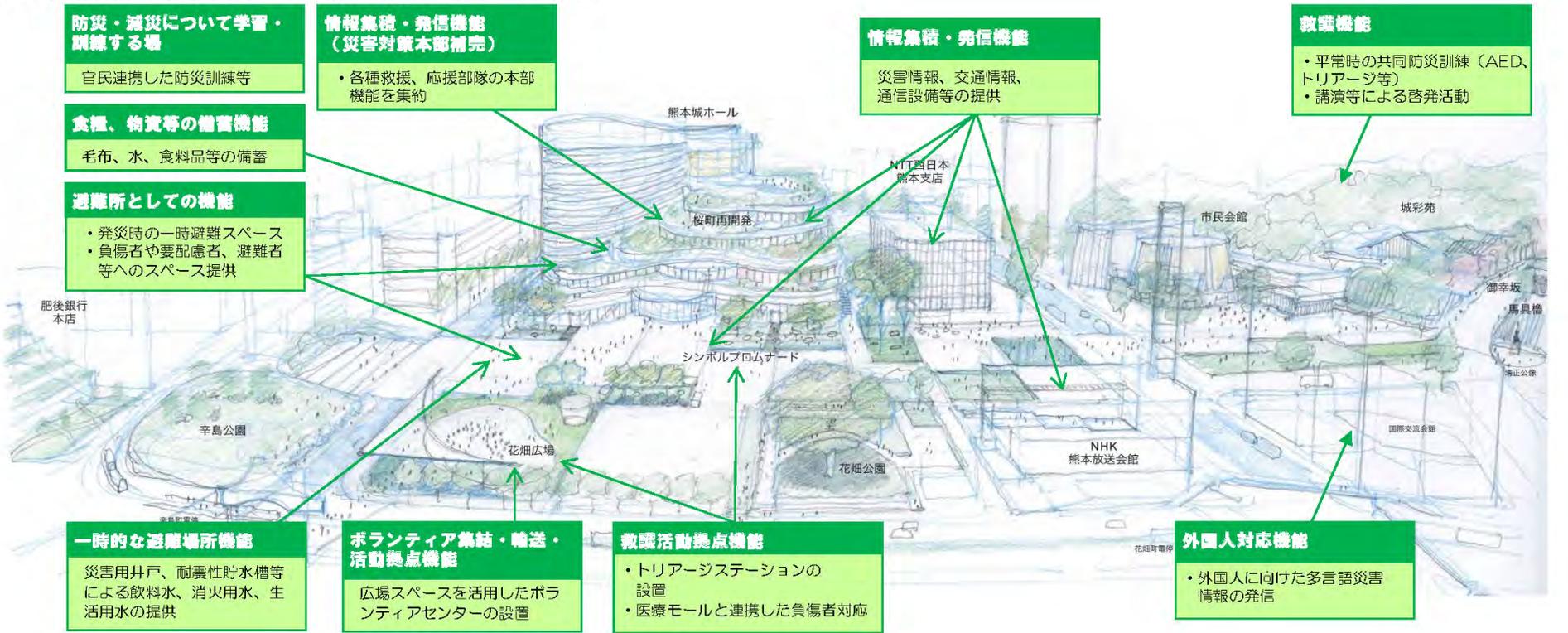
- 民間施設
- ・耐震性能向上(重要度係数1.0→1.25)
  - ・避難所として利用
  - ホテル:要配慮者受け入れ
  - ・食料備蓄対応
  - 商業施設:食料提供
  - ・炊き出し
  - バンケット:厨房を利用
  - ・仮設トイレの設置
  - バスターミナルの活用

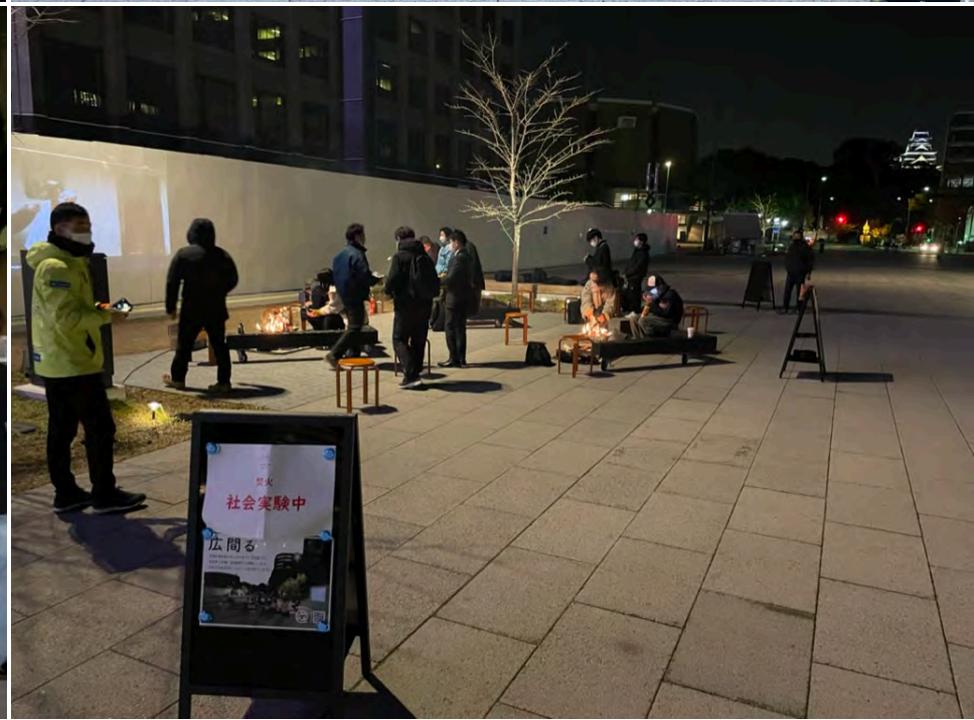
- (仮称)熊本城ホール
- ・耐震性能(重要度係数1.25)
  - ・備蓄倉庫の増設
  - ・災害対策本部の補完



(桜町地区市街地再開発事業施設断面イメージ)

#### ○桜町・花畑地区におけるエリア防災・減災のイメージ (案)





地域密着型設計演習プログラム

□九州デザインシャレット 2022 in 熊本市 テーマ

## 「城下町くまもとのツボをデザインする」

本演習で対象とする熊本市街地は江戸時代の町割りを今に残し、城下町の風情を現在でも感じられることが特徴です。一方で、元々が城を防御する都市構造であったため、現代の基盤としては歩行動線の連続性が分かりにくいなど、まちなかの回遊性に課題も抱えています。市街地のなかで最も人通りの多いアーケード街からは電車通りを挟んでいることもあり、熊本城とまちなかとの人の流れが分断されてしまっています。このようななか、2019年に開業した桜町地区市街地再開発事業、そして2021年に供用開始した花畑広場では、江戸時代の広小路であった道路を広場化することで人の流れをつくる空間を創出し、賑わいを生み出す利活用の運用も始められています。このように歴史的な骨格を現代的に解釈し直し、新たな機能性や活用策を導入する取り組みも参考としながら、人の流れや新たな利活用を喚起するような城下町くまもとの“ツボ”を刺激するデザイン提案を行うことが本演習のテーマです。

# KYUSHU DESIGN CHARRETTE

シャレット (charrette) は仏語で「荷馬車」という意味です。仏の大学生が設計課題の提出日に荷馬車に図面を積んで学校に来る様子から、短期間に集中的に行う演習を意味するようになったと言われています。

# KUMAMOTO

# 特徴 1 地域に密着した課題設定 【城下町くまもとのツボをデザインする】

歴史的なまちの骨格を現代的に解釈し直し、人の流れや新たな利活用を喚起する城下町くまもとのツボを刺激するデザインを提案

課題

「熊本市市民会館とその周辺の公共空間」の将来的なビジョンを示し市民会館の一部リノベーションや公共空間の再編について模型 (1/200) 等を作成して具体的なデザイン計画を提案すること

## 熊本市街地

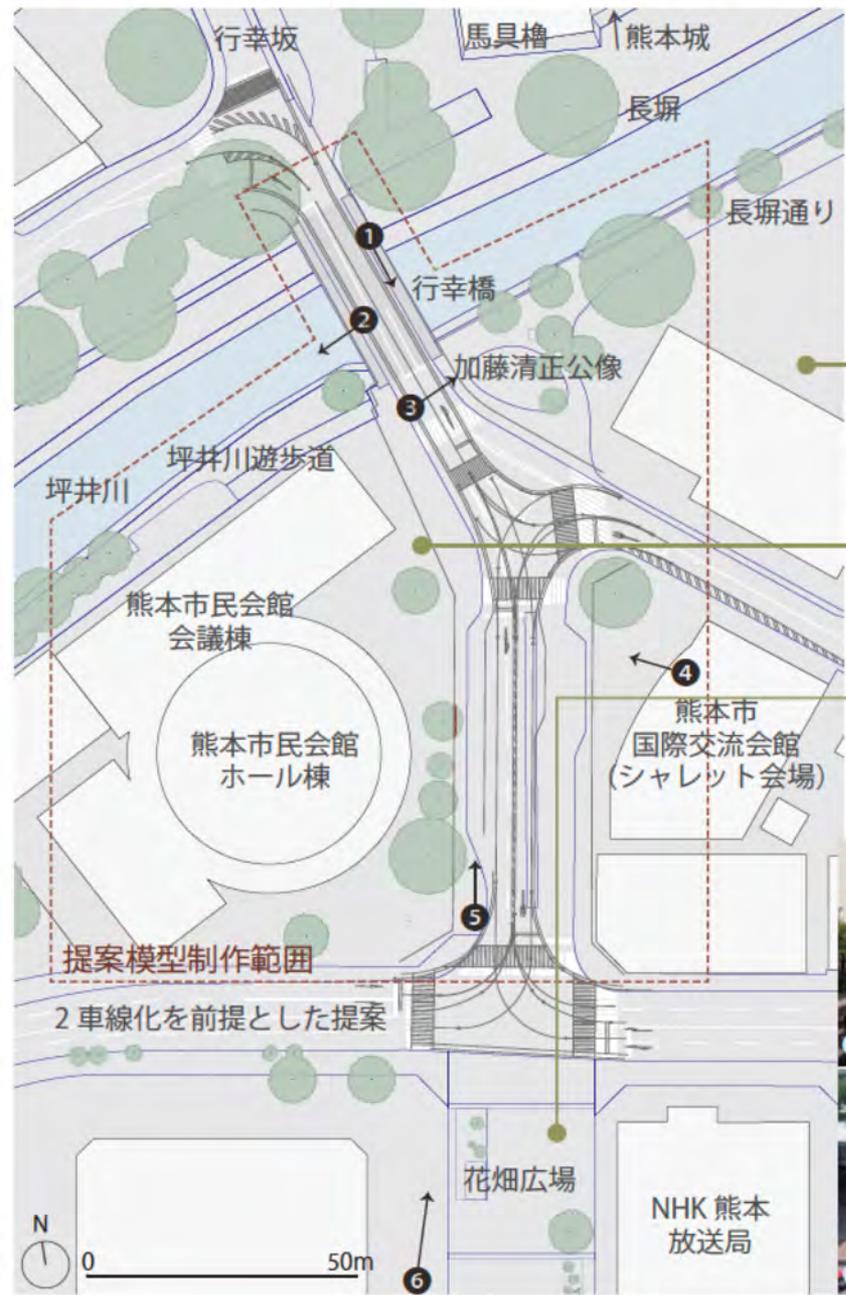
江戸時代の町割り、城下町の風情が今も残る一方で、元々が城を防御する都市構造のため歩行動線の連続性が分かりにくいなど、まちなかの回遊性に課題も

## 熊本市市民会館とその周辺

熊本城への玄関口の一つである行幸橋があり、坪井川沿いの長塀や細川家時代の屋敷の一部が花畑公園として残されている歴史的な地区

## 桜町・花畑周辺地区

“熊本城と庭つづき『まちの大広間』”というコンセプトのもと熊本桜町バスターミナルを併設した大規模商業施設が2019年に開業前面道路は廃道され広場化するなど施設・公園の一体的な整備が展開



① 行幸橋



② 坪井川・長塀



③ 清正公像・長塀通り



④ 会場から見た対象地



⑤ 熊本市市民会館前



⑥ 花畑広場側からみた対象地

■プログラム

	8/29 (月)	8/30 (火)	8/31 (水)	9/1 (木)
9:00	 <p>エスキス / 講評会の様子 (2018)</p>	9 講師によるレクチャー (田中智之)	9 講師によるレクチャー (吉村純一)	9
10:00		10 コンセプトメイキング① (グループワーク)	10 デザインスタディ② 計画図・提案模型検討 (グループワーク)	10 提案模型・プレゼン準備 (グループワーク)
11:00		11	11	11
12:00	会場集合	12 昼食	12 昼食	12 昼食
13:00	ガイダンス 対象地・テーマについて (星野裕司)	13 講師によるレクチャー (柴田久)	13	13
14:00	現地調査 講師による解説 (グループワーク)	14	14 デザインスタディ③ 提案模型検討 (グループワーク)	14
15:00		15	15	15 講師および 地域の関係者 による講評会
16:00		15 コンセプトメイキング② デザインスタディ① 対象地計画図検討 (グループワーク)	16 講師によるエスキス②	16
17:00	調査結果 vs 山下裕子	17	17	17
18:00		18	18	18 撤収作業
19:00		19	19 デザインスタディ④ 提案模型検討 (グループワーク)	 <p>参加者・スタッフでの集合写真 (2019)</p>
20:00	20 講師によるエスキス①	20		
21:00	21 懇親会 (屋外を予定)	21		



# 最終講評会

評価の視点 都市における広場のあり方 提案の新規性・獨創性 デザインの地域性・魅力 プレゼンテーションの質

対象地に新たな5つの顔が!?

## A 上がり框と式台



風研講師賞



花畑広場～熊本城までのイメージパス



3D検討を経て作成された模型



軸の交差と上がり框・式台のイメージ

対象地の読み解き  
熊本城の入口かつ移動しながら見えるエリアの終点  
ビジョン  
まちに格式を引き込む熊本城の玄関口  
デザイン方針  
高低差を上がり框として捉え、軸の交差を顔に。観光客を出迎える式台にメンバー  
伊藤慎吾 (愛媛大学都市・地域デザイン研究室 M2)  
野元優理 (久留米工業大学建築・設備工学科 B2)  
三木歩嵩 (熊本大学景観デザイン研究室 M1)  
桐原涼 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ)

## B 憩う × 結ぶ



行幸橋～花畑広場までの模型表現



連続する円形屋根(こたま)と滞留行動



船着場と見晴台、市民会館 1F スケッチ

歩行の連続性のわかりにくく、交通量はあるものの滞留行動が生まれにくい空間  
回遊性向上、市民の日常的な居場所へ  
円形屋根や底設置による人流創出。  
船着場整備による親水性向上・経済活性化  
生方翔也 (新潟工科大学都市計画研究室 M2)  
周晩新 (多摩美術大学吉村研究室 M2)  
太田隈美歩 (熊本大学地域風土計画研究室 B4)  
夕田潤 (早稲田大学景観・デザイン研究室 M1)  
松岡沙生 (アクセンチュア株式会社)

## C 大広間の舞台袖



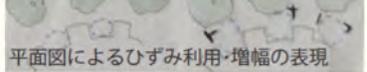
市民会館側の拡幅歩道を三差路から臨む



国際交流会館&市民会館前の模型



3Dモデルによる植栽配置と木陰の確認



平面図によるひずみ利用・増幅の表現

周囲がオンな場所に対して、対象地はオフな空間  
ここで過ごすことで1日が気持ち良く  
沿道建物のひずみを利用・増幅し、周辺との調和&動線・視線の多様化  
小侯慎太郎 (九州大学建設都市工学コース B3)  
近藤沙紀 (横浜国立大学都市計画研究室 M2)  
朴相敏 (東京大学景観研究室 M1)  
福井新 (法政大学景観研究室 M1)  
矢ヶ井那津 (一般財団法人たらぎまちづくり推進機構)

## D 串を刺す・串刺しを重ねる



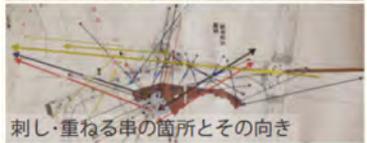
市民会館周辺の模型写真



花畑広場側から長堀・熊本城への見え



市民会館のピロティ化による視線の抜け



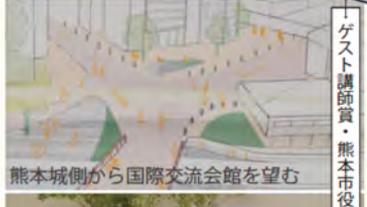
刺し・重ねる串の箇所とその向き

立止る人の少なさ。くの字状道路による先の不透明性。樹木が特徴的景観を阻害  
通過点から中継点に  
景色を開くことで立寄・賑わい・景色への気づき促進。風景の切り換わり地点へ  
志水健一郎 (九州大学芸術工学部緑地保全学研究室 D)  
南部七音 (高知工科大学建築・都市デザイン専攻 B4)  
豊丹生拓真 (長崎大学環境計画研究室 M1)  
柳田壮真 (中央コンサルタンツ株式会社)

## E 川とまちを繋ぐ縁側



ゲスト講師賞・熊本市役所賞



熊本城側から国際交流会館を望む



緩傾斜による坪井川への視点場創出



坪井川～国際交流会館前までの断面図



坪井川沿いのダイアグラム

対象地の読み解き  
古町、上通り、坪井川周辺で帯状の多様な心地よさが生じておりその結節点  
ビジョン  
こちよさの水源(みなもと)から広がる  
坪井川沿いの心地よいベルトをつなげ、まちへ引張、広げる。川への視点場創出  
メンバー  
金偉地 (多摩美術大学吉村純一研究室 M2)  
菅嶋瑛美 (熊本大学田中智之研究室 B4)  
田中颯太 (国士館大学西村亮彦都市景観研究室 M1)  
山口拓巳 (福岡大学景観まちづくり研究室 B4)  
山野裕智 (熊本市役所)



対象地と作業場を何度も往復し、意見のぶつかり合いから提案の方向性を探し、必死にアウトプットしてフィードバックに頭を悩ませる、その一連の過程がとにかく楽しかったです。参加者の皆さんとの絆も強固なものだと思います。



分野の異なる班員同士で意見がまとまらないことやアイデアが分散することもあり決断力や実行力の重要性を改めて実感したことは社会人としても得難い経験となりました。他班からも刺激をもらい、お金では買えない経験ができました。



元々は顔も名前も知らない、立場も年齢も得意分野もバラバラの5人でチームとなり激しく議論できて非常に楽しかったです。ドボクっていいな、楽しいな、この世界に入ってよかったなと思ひ、泣きそうになりました。



本シャレットが私にとっての熊本初来訪で期待と不安でいっぱいでしたが、温かい野次を飛ばし合う先生方、作業の様子を見に来て場を和ませたり困ったときに対応してくださるスタッフの方々に囲まれて4日間学ぶことができました。



まちをどう読み解き、ヴィジョンやコンセプトをどう積み上げていくかを丁寧に学ぶことができました。煮詰まった時や疑問が浮かんだ時にもすぐに講師陣が相談に乗ってくださり、多様な角度からアドバイスをもらえたことが大きかったです。



同世代の人達が自分の意見を的確に発言している姿や、自分達の班とは違った切り口から考えられたデザイン案を聞いて、新しい知識や学びを発見でき、こんなふうになりたいと刺激を受けました。悩んでいた進路決定の一助にもなりました。

アンケート結果

シャレットへの参加	非常に有意義だった 100%
設定課題の難易度	丁度 22%      難しかった 78%
プログラム時間配分	丁度 57%      もっと長く 43%



地球の裏側を見たような、専攻している建築分野と全く異なる視点や考え方に触れたこと、それが全プログラムを経ての一番の財産です。これを機に狭い分野に固執せず、柔軟な考えをもてる自分になれるよう頑張っていく所存です。



大学の中でも、実務の中でもこの密度でデザインに向き合える機会はないと思っています。私自身がこの経験を最大限に活かしていくと共に、未来の後輩たちのためにもシャレットが受け継がれて欲しいと強く願っております。